



住宅用火災警報器が いざというときに作動するために

● 定期的に点検・お手入れを行いましょ。

住宅用火災警報器には電池切れやセンサーなどの故障を確認できる機能があります。アンケートで実際に点検してもらったところ、約1割は、電池切れや故障などで正常に作動していませんでした。機能の維持のためにも必ず定期的に点検しましょう。点検の際には、取扱説明書の動作確認や定期点検の項目に従ってください。

● 10年を目安に本体を交換しましょう。

見た目には異常がなくても、内部のセンサーや部品は消耗・劣化していきます。そのため、本体の寿命は10年とするものが多くみられます。設置時期を取扱説明書や警報器本体に記入しておき、寿命を迎えたものは本体を交換しましょう。

● 点検・交換の際は、 けがなどに注意しましょう。

アンケートでは、警報器の取り付け点検などの際に、転落・転倒などでけがをしたという回答も見られました。点検・交換の際は十分注意しましょう。

点検・交換に便乗した悪質商法にも注意し、不安になった場合やトラブルになった場合は、最寄りの消費生活センターへご相談ください。



※消費者ホットライン：「188（いやや!）」番

お住まいの地域の市区町村や都道府県の消費生活センター等をご案内する全国共通の3桁の電話番号です。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL：042-758-3165 ●2019年1月発行
イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険 Number 347

住宅用火災警報器の点検を！ その警報器、10年以上経っていませんか？



住宅用火災警報器※1は、家庭内での火災の発生をいち早く検知し、音や光によって知らせる装置です。消防法によって設置が義務付けられていますが、設置された警報器の中には、劣化や電池切れが生じているものがあると考えられます。

住宅用火災警報器は警報を鳴らしていない時も常にセンサーが作動し、監視しています。機能を維持するために、必ず定期的に点検を実施し、10年を目安に本体を交換しましょう。

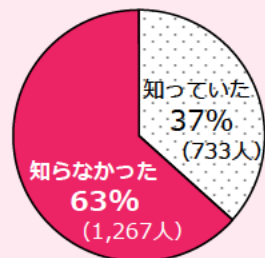
※1：法令上の名称としては住宅用防災警報器と表現されますが、商品名やわかりやすさを考慮し、住宅用火災警報器としています。



住宅用火災警報器に関するアンケートを行いました

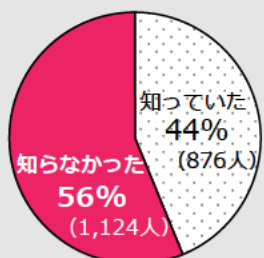
- 方法：インターネット ●対象：電池式の住宅用火災警報器を設置している全国の18歳～79歳までの男女
- 内容：使用実態や点検に関する調査 ●対象人数：2,000人

本体の交換は10年を目安を推奨



約6割の人が
知らなかったと回答
◀本体の交換について (n=2,000)

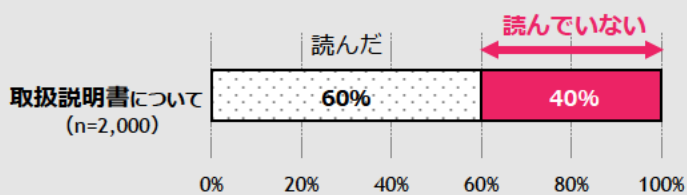
電池切れや故障を知らせるアラーム警報機能がある



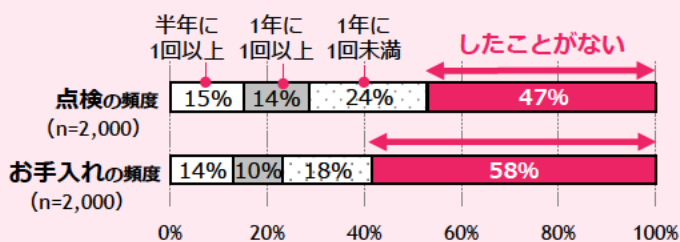
約6割近くの人が
知らなかったと回答
◀警報機能について (n=2,000)

取扱説明書について

設置場所に関する注意や、点検、警報音に関すること、異常時の処置方法などが記載されています。



点検やお手入れの頻度について



トラブル経験について

13% (266人) は
経験ありと回答
(n=2,000)

こんなトラブルがありました (n=321 複数回答 一部抜粋)

- 1位 火災でもないし、煙もないのに作動した (125件)
 - 2位 電池が切れていた (115件)
 - 3位 ボタンが効かない、引きひもが切れたなどの故障 (27件)
- その他、取付点検などの際、転落・転倒などでけがをした (19件) など

けがをした19件を除く約3割 (94件) は、そのまま放置または取り外されたままに...



実際に点検確認をしてもらいました

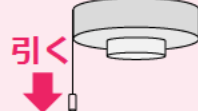
アンケート回答者に、実際に設置されている住宅用火災警報器の点検確認操作を、危険の伴わない範囲で任意にお願いしたところ、1,474人から回答が得られました。

主な点検確認方法

警報停止/点検ボタン例

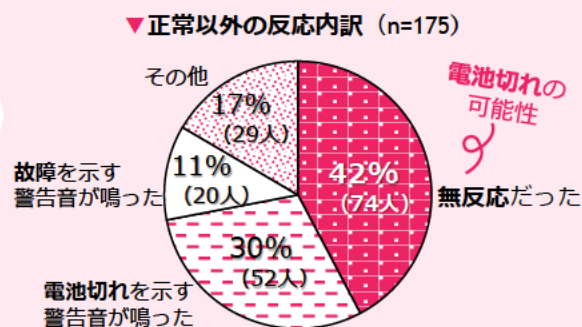


引きひも例



点検確認の結果...

12% (175人) は正常以外の反応



住宅用火災警報器とはどんなもの？

煙式警報器 センサーにより煙を検知



熱式警報器 センサーにより熱(温度)を検知

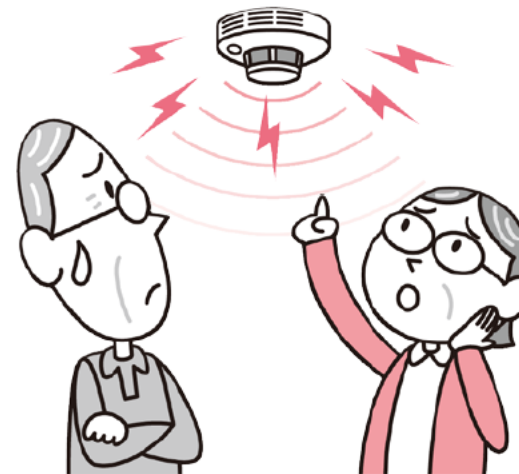


警報停止ボタン(点検ボタン)表示灯を兼ねている



住宅用火災警報器の電池や誤作動^{※2}に関する相談が寄せられています

全国の消費生活センター等には、住宅用火災警報器の電池や誤作動に関する相談が、2012～2017年度の間で141件寄せられています。(2017年7月31日までの登録分)



ケース1

10年前に設置義務化されたときに購入した火災警報器の電池が切れた。電池だけの交換は不可という。同様の相談は入っていないか。
(受付年月:2016年12月、70代・男性)

ケース2

築10年の住宅に設置された火災警報器からの警報音が止まらない。対処方法は。
(受付年月:2017年4月、70代・女性)

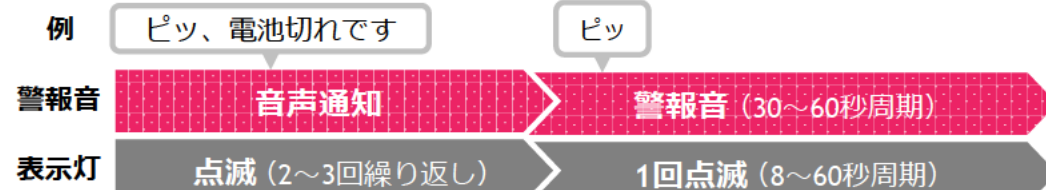
※2：警報器に異常はなく、ホコリや水蒸気、調理の際の煙など、火災以外の原因で作動する場合(非火災報)を含め、誤作動と表記しています。

商品テスト

電池切れや故障になったときの動作を確認しました

電池式の住宅用火災警報器6銘柄(煙式4銘柄・熱式2銘柄)で、電池切れ及び故障時の動作確認をしました。

電池切れ警報...電池が消耗した状態を再現しました

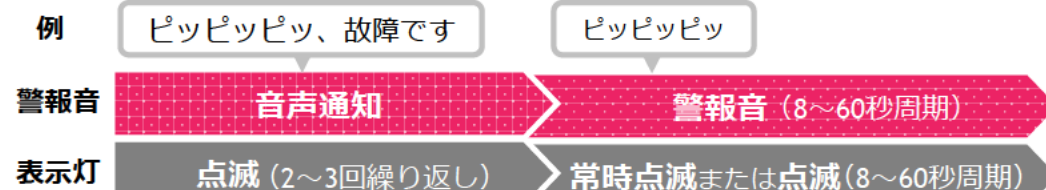


警報音、表示灯ともに約30分~1時間ごとに繰り返し

すべての銘柄で、

- 電池切れ警報中でも火災警報機能は作動
- 完全に電池が切れた状態では電池切れ警報は鳴らなくなった

故障警報...センサーの異常状態を再現しました



警報音、表示灯ともに約30分~1時間ごとに繰り返し

チェック!

- 1分以上見続けて警報音と表示灯の点滅が周期的にあった
 - 警報停止(点検)ボタンを押して音声通知があった
- ➔電池切れや故障状態と判断

●この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター公式ウェブサイトの発表情報「住宅用火災警報器の点検をしましょう! -経年劣化や電池切れにより正しく作動しないことも-」で見ることができます。